

第2回 小牧市地域包括ケア推進計画策定委員会 議事録

日 時	令和5年1月12日(木) 午後1時30分～3時
場 所	小牧市役所 本庁舎 6階 601会議室
出席者	<p>【出席委員】(名簿順)</p> <p>長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校 校長 石田 幸大 小牧市薬剤師会 永平 美奈子 小牧市介護保険サービス事業者連絡会(居宅介護支援部会) 江口 はづき 小牧市介護保険サービス事業者連絡会(施設部会) 小木曾 眞知子 障がい福祉相談支援事業所 三嶋 直美 南部地域包括支援センター 管理者 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会 在宅福祉課長 鳥居 由香里 こまき市民活動ネットワーク 副代表理事 舟橋 武仁 区長会連合会 連合副会長(巾下地区) 小林 静生 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会 篠岡地区会長 鈴木 久代 学校教育課 指導主事 橋本 牧男 公募委員 山本 菜々美 公募委員</p> <p>【欠席委員】</p> <p>前川 泰宏 一般社団法人 小牧市医師会 理事 佐々木 成高 小牧市歯科医師会 副会長 河内 宏一 小牧市リハビリテーション連絡会</p> <p>【事務局】</p> <p>伊藤 俊幸 福祉部 部長 松永 祥司 福祉部 次長 西島 宏之 地域包括ケア推進課 課長 平手 明仁 介護保険課 課長 倉知 佐百合 地域包括ケア推進課 福祉政策係 係長 社本 里美 介護保険課 保険資格係 係長 吉本 隆正 地域包括ケア推進課 福祉政策係 主任 中村 なぎさ 介護保険課 保険資格係 主任 櫻井 克匡 小牧市社会福祉協議会 地域福祉課 課長 荒井 成治 小牧市社会福祉協議会 地域福祉課 課長補佐 池谷 基善 小牧市社会福祉協議会 地域福祉課 山田 美智子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>資料1 第3次小牧市地域福祉計画・地域福祉活動計画進捗管理シート</p> <p>資料2 第8次小牧市高齢者保健福祉計画進捗管理シート</p> <p>参考資料 小牧市の介護保険事業の分析</p>
当日配布資料	・配席表

1. 開会

2. 議題

(1) 第3次小牧市地域福祉計画・地域福祉活動計画、第8次小牧市高齢者保健福祉計画の進捗状況

- ・事務局より、資料1（第3次小牧市地域福祉計画・地域福祉活動計画進捗管理シート）を用いて説明。質疑、主な意見は以下の通り。

鳥居委員)

新型コロナウイルス感染症の流行状況によって福祉教育の実践ができなかったという説明でしたが、他市の例ですとIT等を利用して教育を進めることが普及し始めていると感じていました。今後どうなるかは分かりませんが、小中学校にはタブレットもありますし、体験もバーチャルで出来るということもありますので、検討をよろしくお願いします。

山本委員)

重点事業1の「小学校における実践教室実施校」について、私も小学生と中学生の子どもがいるので関心があります。

子どもたちや保護者が興味を持てるようにする進め方について、ITという方法もありますが、やはり直接触れ合ってみないと分からない部分もあると思います。コロナ以前には福祉施設での体験があったかと思いますが、今、全然できていないのは少し寂しい現実だと思います。

小学校でも新型コロナウイルス感染症が流行しているため、今年や来年にすぐにできるかは疑問ですが、初めから「コロナだから無理」ではなく「実施してみよう」というアクションは起こして欲しいと思っています。大人にとっての1年と子どもにとっての1年は大きく異なりますので、前向きに検討していただければと思っています。

事務局)

まず、小学校における実践教室は、高齢者の疑似体験、視覚障がい者の体験などを実施しています。実施に当たっては、各小学校に確認を取っています。令和元年から令和3年度までは新型コロナウイルス感染症の関係でなかなか実施することができませんでした。

福祉体験の参加についても、各高齢者施設や障がい者施設に小・中・高校生の受け入れをお願いしていますが、やはり新型コロナウイルス感染症の関係で施設側から「外部の方を施設内に入れることは出来ない」と断られている状況が続いていました。

ただし、今年度に関しては施設のご協力もありまして30名ほど受け入れていただいています。今後も進めていきたいと考えていますのでご協力をお願いします。

田中副会長)

重点事業5の「災害時避難行動要支援者台帳の登録者」について、地域のつながり活動が停滞している中、増加していますが、何か働きかけをしたのか、新型コロナウイルス感染症の影響で対象者の方々の意識が高まったのか、その辺りはどのように分析されていますか。

事務局)

新規に要介護認定を受けられたとき、又は障がい認定を受けられたときに「このような制度がありますよ」と案内をしていますが、それ以降は尋ねる機会はありませんでした。令和2年度に入り、これらの方々に改めてこの制度について周知啓発活動を行った結果、登録者が増加

したものです。

長岩会長)

登録者率とありますが、母数は何ですか？

事務局)

分母は先ほど申しあげました要介護3以上などの方の総数です。分子は、地域の民生委員や区長、災害ボランティアの方々に公表しても良いと同意された方になります。

鳥居委員)

「地域の見守り活動を実施している団体数」や「小学校区単位の防災訓練実施校数」などは高齢者保健福祉計画にも同様の項目がありますが、それぞれ『基準値』が異なります。基準値の考え方やどういう考えで目標を設定しているのか説明をしていただきたいです。

長岩会長)

資料2で併せて説明をしてもらうこととします。

小木曾委員)

重点事業2の「ご近所福祉ネットワークの設立数」について、新型コロナウイルス感染症流行の中で減ってはいるものの0にはなってはいません。地域の見守り体制や民生委員の訪問など対面での対応が困難な中、どうしても必要があつて残されたと思いますが、コロナ禍でも数が増えている年もあつていいことだと思えます。ただ、それはどうしてなのかお伺いしたいです。

事務局)

ご近所福祉ネットワークの設立数とは、小学校区単位で設置されている地域協議会の福祉部会等と連携した数であり、地域支え合い推進員も協議等に参加しています。

長岩会長)

これは「話し合いの場が持てた」段階で、ネットワーク設立と評価してよろしいですか。

事務局)

話し合いを通じてネットワークを確立した数になります。

長岩会長)

目標値の16というのは、全小学校区が16ということですか。

事務局)

そのとおりです。

- ・事務局より、資料2（第8次小牧市高齢者保健福祉計画進捗管理シート）を用いて説明。質疑、主な意見は以下の通り。

長岩会長)

高齢者保健福祉計画は令和3年度から計画開始となっており、評価が非常に難しいところですが、関連して先ほど鳥居委員からご指摘があつた「地域において見守り活動を行っている団体数」の基準値や目標値の違いは、計画期間開始時期の違いによるものだと感じました。

地域福祉計画は平成29年度から開始された計画であり、高齢者保健福祉計画は令和3年度から開始しているため、同じ項目でも計画策定時の実績値（基準値）や目標値が異なってきているということだと思えます。そのような解釈でよろしいでしょうか。

事務局)

そのとおりです。そのため、令和3年度の実績値88に対して、地域福祉計画では◎評価、高齢者保健福祉計画では×評価という違いになっています。

長岩会長)

『2つの計画に同じ項目』ということだと、「ご近所福祉ネットワーク設立数」について、令和3年度実績が地域福祉計画と高齢者保健福祉計画で異なりますが、どちらが正しい数値でしょうか。

事務局)

申し訳ありません。こちらに関しては令和3年度の実績値は「8」となりますので、地域福祉計画の実績値の訂正をお願いします。

小林委員)

「見守り活動を実施している団体数」とありますが、具体的にはどのような団体を指しますか？ また、軽度生活支援サービスとはどのようなものですか？

事務局)

「見守り活動を実施している団体数」とは、集いの場の見守りや出向く見守りを実施している団体になります。サロンが実施しているものもありますし、それ以外にも家庭への声掛けを実施しているものも含めています。

長岩会長)

そうすると、ボランティア団体や町内会などさまざまなものが含まれているということでしょうか？

事務局)

そのとおりです。

長岩会長)

軽度生活支援サービスはいかがですか。

事務局)

シルバー人材センターが高齢者のみ世帯の方などに対して、庭の手入れなどの軽易な日常生活上の援助を行うサービスです。

長岩会長)

介護保険サービスの範囲外で需要のあるサービスをきめ細かく対応していこうということですね。

事務局)

そのとおりです。

鳥居委員)

こまき支え合いいきいきポイント還元者数の達成状況が「×」となっています。ですが、今回の資料1を見ますと、サロン数の達成が「◎」となっており、皆さん活動をされていると思います。ポイント還元者数が少ないのはどういうことですか？また、シルバー人材センターの会員数の達成状況が「×」になっている理由についても説明をお願いします。

事務局)

サロン数は増えているものの、新型コロナウイルス感染症の影響でサロンでの活動自体があまりできていないこと、またこのポイントは介護事業所、介護施設での取り組みでもポイント

を取得できますが、コロナ禍でなかなか活動の受け入れが難しいことが要因として挙げられます。

また、シルバー人材センターの会員数の減少につきましては、大きな要因として「社会情勢の変化」が挙げられます。企業における定年延長や再雇用などの仕組みが出来てきており、シルバー人材センターへの登録が減っているのではないかと考えています。

長岩会長)

シルバー人材センターについては、現状の計画では項目として挙げられていますが、働き方の多様化が進んだという点では、地域包括ケア推進計画の項目として引き続き設定するかどうかの協議があっても良いのではないかと思います。

橋本委員)

私がサロンや老人会の活動で感じたことですが、今高齢者が一番苦しんでいるのは「外へ出られない」「情報交換をしたいのになかなかできない」ということがあります。何か1つきっかけを作ろうということで、介護福祉の関係でどのような支援があるかなどの入門編を行ったら非常に高評価でした。

コロナにはコロナの時の対応方法があると思います。何とか、これをきっかけとして情報交換や自分たちの知識を高めるための会合を行うべきかなと考えています。そこに参加されるスタッフさんも結構増加しております。

ただ、反面、老人会の新年の会合で会長から話があったのですが、ここ数年、団体数だとか会員数が減っており、「もう少し魅力的な活動を」ということだったのですが、サロンや3あい活動、老人会などの活動がバッティングしていることもありまして、どこにポイントを置いて活動していくかを考えていく必要があります。ただ、新型コロナウイルス感染症の時代ですのではなかなか進歩的な意見がでてこない。臨機応変に対応するためにも何か考えていく必要があると思っています。

長岩会長)

高齢者保健福祉計画はWith コロナ、After コロナを意識して作られたものかと思いますが、その時はここまで長引くものとは想定されていなかったと思います。今回の計画についてもWith コロナを前提に策定していく必要があるのだなと思いました。

名古屋市の事例ですが、新型コロナウイルス感染症の流行前には皆が集まって弁当を食べる「会食サービス」がありましたが、それを配食サービスに切り替えたところ、会食サービス時よりも利用希望者が増えたという事例があります。配食サービスでも配るときに手渡しをして接点を持てたりやりとりが出来ますとの報告でした。

3. 意見交換会

・3グループに分かれてテーマごとに意見交換を行った。各グループのまとめは次のとおり。

・Aグループ テーマ【サロン】

サロンが地域のたまり場になるにはどうしたらいいか？

どうしたら多世代が集えるような場になるか？

(田中、小木曾、小林、山本 各委員)

小木曾委員)

サロンという場は「自由に行ってほっとできる」ということが求められています。また、こういう活動については、高齢者から子どもまで集まれるよう、学校教育の場などを活用していくことが重要だと考えていました。

また、多世代が集えるような場にするについては、共働き世代の参加が難しいなどの課題があります。これに対して、「こどもの長期休暇」を利用してクリスマス会などのイベントを開催し、親子でサロンに参加していただくことに繋がっていくのではないかなど意見が挙げられました。

いずれにしても、学校教育の場で周知していくことが大事だと思います。

・Bグループ テーマ【複合的な課題の解決支援】

サービスにつながらない人へどのようにアプローチしたらよいか？

8050 問題や多問題を抱えた潜在的な要支援者をどのように掘り起こし、支援していけるか？

(三嶋、永平、江口、鈴木 各委員)

江口委員)

サービスにつながらない人へのアプローチという観点では、福祉分野は私たちでも何の会議に参加しているか分からないくらい多くの会議があり、内容も類似・重複しているものがたくさんあるように思います。

スマートフォンと同じでたくさんの機能がついている高性能なものより、本当に利用しやすいサービスをシンプルに分かりやすく伝えていく必要があるのではないかと考えました。また、計画の中でも「増やす目標」ばかりがありますが「減らす目標」などがあってもよいのではないかと考えました。

既存のサービスについても「ニーズがなければ途中で変えていく勇氣」、つまりは見直していくことが必要なのではないかなと思います。

潜在的な要支援者の掘り起こしについては、高齢者も子どもも同じで「その人を知る」というところにあると思います。1人にならないために、対面でもネットでもいいから誰かに繋がる。「心を開ける人を1人でも作る」ことができる仕組みが必要だと感じました。

・Cグループ テーマ【地域福祉や福祉サービスの情報提供】

若い人や新しい人の参加を促すため、どのような仕掛けをしたら地域福祉活動へ参加してもらえるか？

どのような方法、手段でPRしたら、福祉サービスの情報が多くの人にいきわたるか？

(長岩、石田、鳥居、舟橋、橋本 各委員)

石田委員)

定年退職者にボランティア参加者を募集しても集まりにくい現状があるため、「各企業に対して協力を依頼し、定年退職前の勤労世帯に地域福祉活動をPRしてはどうか」と意見が出ました。

福祉サービスの情報を伝える手段としては、積極的に情報を取りに行く方ばかりではないことからスーパーや銀行などの目に留まる場所でPRの協力をしてもらうほか、若い方ですと動画などを活用していくことも良いと思います。ただし、動画でPRすると言っても「動画がある」ということをPRする必要があるため、若い人が集まるイベント等で二次元コードが付いたチラ

シなどを配布することが必要だと考えました。

【まとめ】

田中副会長)

現場で実践されている方々の議論のため、すぐにでもやりたくなるような具体性のある内容が多く非常に有意義でした。また、前回の計画から期間が空いたこともあります。多くのことが大きく変わり、PRの仕方などを含めて時代の流れを感じました。

長岩会長)

Aグループの「サロン」については、「居心地のよさ」が何よりも大事だと思いますので、行政や社会福祉協議会で活動の方向性を絞りすぎるとサロンの雰囲気がギクシャクしてしまうので避けた方が良いのではないかと思います。また、「ごちゃまぜサロン」という高齢者、子育て世代、子どもなど幅広い年齢の方が参加しているサロンが流行っていますが、やはりそのようなサロンがある地域は住民があっただかい雰囲気があると感じます。

Bグループの「複合的な課題の解決支援」は、難しい課題だと感じますが、支援が及ばない一例として本人がサービスや支援を拒否するケースも挙げられます。

その場合には「本人を頑なにしたのは誰か」というところまで考えることが重要です。過去に意に沿わない形でサービスの利用を強要されたり、地域から排除された経験などがあるかもしれない。拒否をする背景まで考えて支援をしていかないといけないと思います。

また、ヤングケアラーの問題に関しては、子どもが「SOSを出してはいけない」と感じていたり、先生が気付いていないケースが考えられます。

Cグループの「地域福祉や福祉サービスの情報提供」については、困ったときにスッとアクセスできることが必要だと思います。昔は紙媒体が主流でしたが、現在はSNS、LINE、YouTubeなど様々な媒体があると思います。

また、第二層の生活支援コーディネーターの方は、地域課題を解決する手段を模索する中でどのような形で若い人や新しい人に協力していただくか、その部分を意識しながら活動していただきたいと思います。

4. その他

- ・「小牧市の介護保険事業の分析」を用いて現状の説明を行った。
- ・次回の会議開催は令和5年5月25日に開催予定。
- ・委員会の議事録（案）作成後、委員の皆さまにご確認いただく。

5. 閉会